

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

3 水源河川におけるモニタリング調査手法の構築

[総合評価とコメント]

水源管理は健康に直結することから、県民のための環境保全施策の中でも、特に重要性の高い行政課題といえる。

本課題は、河川におけるモニタリングデータを水源管理にいかにも有効に活用するかという観点で設定されており、行政上の有用性の高い課題である。

5年計画の3年目にあたる今年度までに、既に多くの成果が上がっており、着実に研究が遂行されているものと評価できる。

27年度には指標生物の検討（砂場）についてのまとめの年にあたり、新たな解析を試みるという計画になっているが、スケジュール管理に十分留意して進められたい。

統計手法の適用にあたっては、有意性があれば必ず因果関係を正しく説明しているとは限らないことに留意し、逆に有意性が十分でなくても因果関係を見出せる場合もあることにも留意されたい。

具体的な成果の評価が他項目より低くなっているが、成果のレベルが低いと評価しているのではなく、対外発表がこれからの段階であるために評価を保留しているという趣旨であることを付記する。

時間をかけてデータを集めていくことが重要な類の研究である。継続をしていくべき。ただし、成果の発展性を高めるための努力をすべきであり、同様の研究を実施している研究機関等と交流等も検討してはどうか。（そのような情報も「具体的な成果」の評価の一助ともなるのではないか。）

県民参加型の調査が続いており、また継続性が重要なテーマである。その意味から県として取り組む意義があると考えられる。

データを解析し有効な結果や提言につなげていく部分こそ、環境科学センターが果たすべき役割である。その意味で新しい統計学的解析方法を導入しようとする姿勢は評価できる。統計解析とその解釈では、統計の専門家などの連携しつつ、間違いのないようにすすめることを望みます。

河川の生態系について、砂量と指標生物について検討されている点は、長期的な河川環境を管理するために重要な考え方であるといえる。自然豊かな神奈川県下における長期的な河川管理に向けて意義のある取り組みである。統計的手法で生物種2種に絞り込み、検討を行っており、今後、データ解析を進めることで、砂堆積との関係の精度が上がることを期待される。なお、SS中のリンとの関係については、考察を深めて欲しい。

(数値的評価)		評価者4名				
評価の内容	評価項目	ランク				
課題設定の妥当性	背景と必要性	5 (1人)	4 (2人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
	優先性	5 (0人)	4 (4人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)
計画の立案と実施方法	研究内容	5 (1人)	4 (3人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)
	計画の妥当性	5 (1人)	4 (2人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
研究の進捗状況	進捗状況	5 (1人)	4 (1人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)
成果の展開と普及	目標の達成度	5 (0人)	4 (2人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)
	具体的な成果	5 (0人)	4 (1人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)
	成果の発展性	5 (1人)	4 (1人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)

ランクは、5点満点の評価で5(優)～1(劣)